日本 2	関東地方ESD活動支援センター

「ESD for 2030学び合いプロジェクト」
気候変動じぶんごと化プロジェクト

キーワード	ESD、気候変動教育、地理教育、人権・ジェンダー教育、避難所開設訓練
活動の目的・目標	１．気候変動、災害に対し、自律的に行動できる人材の育成 ２．相互の学び合いや実践活動を通して、各主体の活動の向上を図る ３．多様な主体の参画・異なる分野との連携
活動の対象者	直接的：気候変動教育を実施し得る、NPO、学校、公共団体などの教育者 間接的：NPO、学校、公共団体などの行事に参加する生徒（小学校高学年～高校生）、市民、事業者など

活動内容

「気候変動による影響と対策に関する、学びと実践」

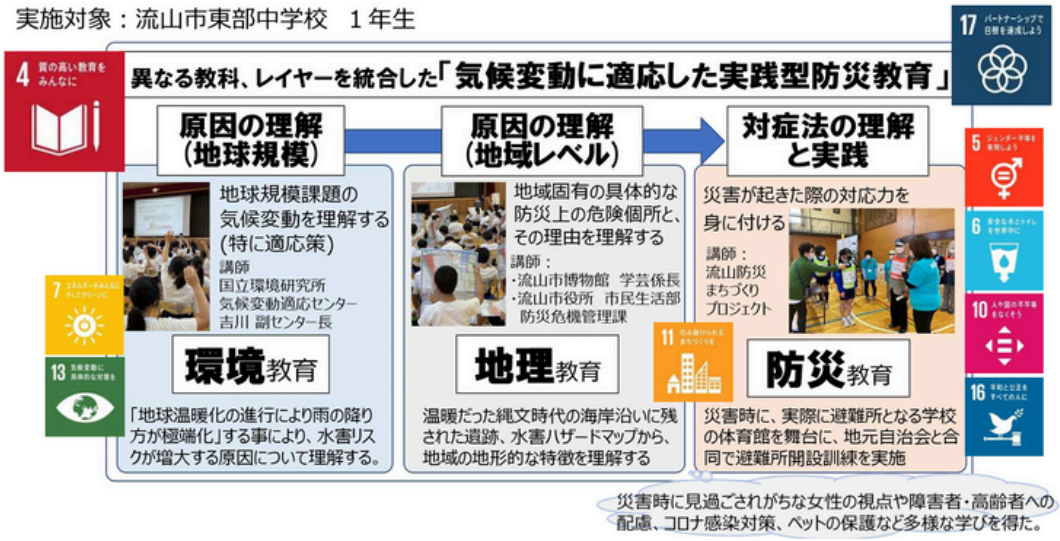
課題意識	「気候変動教育」は地球規模課題であり、「自分ごと」として捉えにくい 中学生に関心を持ってもらうには、「身近なテーマ」と結びつけることが重要では？
学んで欲しい内容	
獲得して欲しいスキル	実際に自分達が住んでいる地域の「**地理的特性の理解**」と災害時の「**避難所開設**」
全体目標	気候変動、災害に対し、自律的に行動できる人材の育成

【活動趣旨】
「気候変動」は地球規模課題であり、かつ見えない二酸化炭素、自分の生活のスケール感と乖離した課題であるため、「自分ごと」として捉えにくい。そこで、小学生や中学生にとって理解しやすい自分の住んでいる地域の防災と関連させることで、自分ごと化を促すこととした。

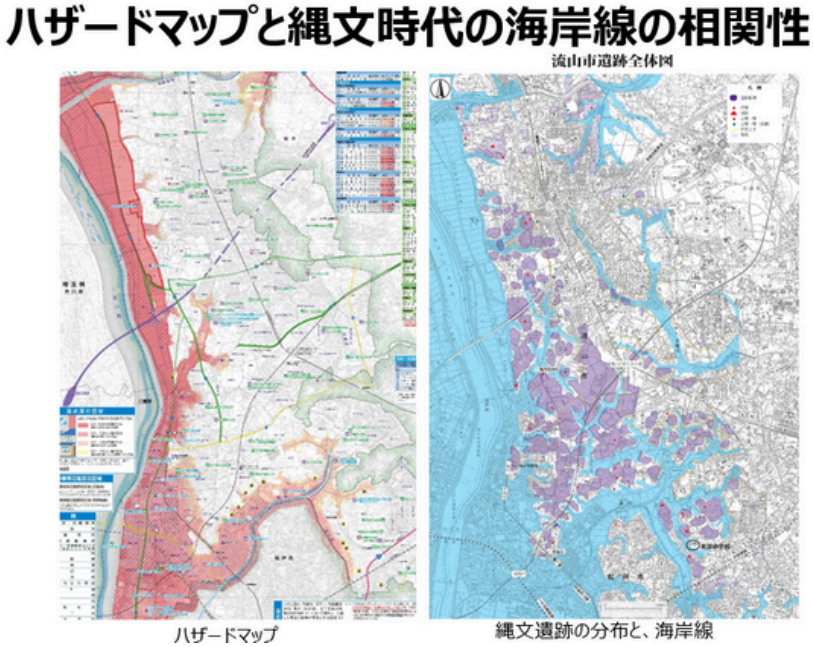
日本２	関東地方ESD活動支援センター

活動内容

【実施内容】



気候変動が進むことで雨の降り方が極端化し、各地で水害のリスクは高まる。水害は気象条件の他に、地域の局地的な地形の理解が必要となるため、地理教育が重要となる。単に地図を理解するのではなく、かつての温暖化の痕跡である縄文時代（現代より１～２℃気温が高く、海水面も２～４ｍほど高かった）の海岸線（縄文海進）と、そこで暮らした人々の痕跡である貝塚や縄文遺跡の分布の解説を行う。かつて海だった場所は「低い土地」であり、洪水被害に合いやすく、田んぼや蓮田として利用されている場所も多い。現代のハザードマップで注意喚起されている場所とも明確に関連性があり、自分の住んでいる地域にそのような歴史的に経緯があった事に対する新鮮な驚きを与えられるため、学習者に対して大きな印象付けを行うことができる。



講師は、各分野の専門の方をお呼びし、実施している。
（千葉県流山市で実施した授業の例）
・気候変動：国立環境研究所　気候変動適応センター　副センター長
・地形：流山市立博物館 学芸員
・防災（ハザードマップ）流山市役所 市民生活部 防災危機管理課 係長

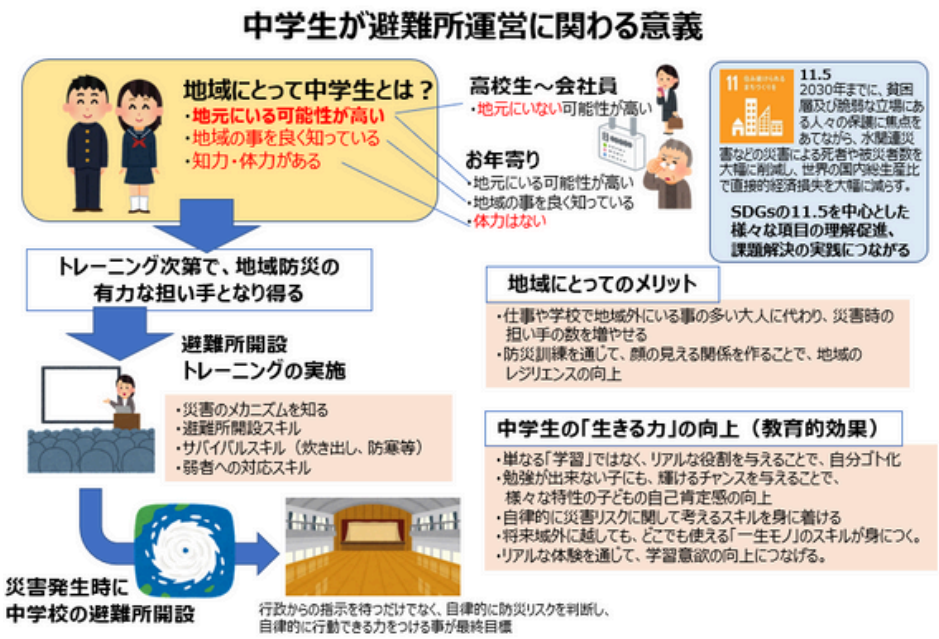
なお、これらの講師は必ずどの地域にもある機関に依頼をしているため、別の地域で実施する際にも、同様の担当部署に依頼をすれば実施できる内容となっている。

日本２	関東地方ESD活動支援センター

活動内容

上記は、防災・減災のために必要な知識の習得を目指しているが、そこに避難所開設訓練をセットすることで、災害の影響をよりリアルに感じることができる。また各被災地の避難所で課題となる、ジェンダー、高齢者、障害者、外国人、ペット連れなど多様な避難者に対する配慮が必要であることを、間仕切りのためのテントや段ボールベッドなどを体験してもらうことで、より実感を持ってもらうように実施している。特に公立小・中学校の体育館は、実際に避難所となる事が多く、もし実際に避難所が開設される状況となれば、中学生は避難所での有力な活動者となり得る。

＜参考＞流山の防災まちづくりを進める団体から相談のあった取組



避難所開設訓練については、民間組織である流山防災まちづくりプロジェクトと連携して実施した。この団体は、災害避難所でのジェンダー問題などを軸にジェンダー（男女共同参画）について活動しており、学校での避難所開設訓練も実施している。流山市立東部中学校で実施した取り組みの際は、地元の自治会とも共催したことで、学校が避難所に指定されている近隣の高齢者の方に学校にお越しいただき、一緒に参加することで現実に近い活動になった。地元自治会の方、生徒や学校教職員にとっても、リアリティのある体験を提供することができた。

（実施に避難してくる可能性のある、近隣の自治会も一緒に参加）

日本 2	関東ESD活動支援センター
活動内容	このように環境、地理、防災という複数にまたがるテーマを一つのパッケージとして展開し、それぞれが関連していることの理解を促す取り組みを実施することで、学習者に対して大きなインパクトを与え、自ら気候変動や防災へのアクションができる「気づき」を与えることを目的に実施している。 【この事業の教育的意義】 　地域固有の教材を作る事は、学校の先生が多忙であること、人事異動で数年ごとに異動してしまい地域特性の把握が難しいことなどもあり、学校や地域固有の内容のプログラムを作る事は、一般的にハードルが高いとされている。今回、当センターがコーディネート役となり、専門分野の講師のアレンジ、ワークショップの進行などを実施することで学校の負担を軽減し、地元の市民団体と協力しながら運営する体制を構築した。 　また当センターの推進するESD（持続可能な開発のための教育）は、体験・他者との対話・学校との連携などを重視しており、今回のプログラムでは、その様な要素もふんだんに盛り込んでおり、高い学習効果を目指した。 【まとめ】 　気候変動、地理、防災をセットで理解することで、それぞれが関連しているという教科横断的な学びに繋がったと考えている。これは、つながりを含む全体像を観ること、根本を観ることによって複雑なシステムの本質的な理解するシステム思考の考えにも沿っている。また本プログラムで学んだことは、将来生徒が別の場所に住むことになる時にも、防災上安全な土地を選ぶ際の参考になることから、長期に渡って有益な知識を得る教育と考えている。
活動の特徴	１．環境・地理・防災という異なる教育テーマ、地球規模・地域課題など多岐渡るテーマを一気通貫するインパクトのある教育プログラム ２．地域の土地の特性など通常の授業では難しいが、地域防災を理解する上で極めて重要なテーマを学ぶプログラム開発 ３．体験・対話を重視し、ESDの特徴である「主体的・対話的で深い学び」となるように考慮
参加者の声・感想	○今回の授業でいま私たちが住んでいる、S市、日本、そして地球でどのようなことが起きているのか知れた。地球で起きている気候変動の問題、その対策、そして私たちができることについて知り、考えることで、これからの生活の仕方を考えることができた。過去から学び、今何が起きているのか知ることで、自分自身が安全に生活できるようになり、人生が1 つ、豊かになった気がしている。「備えよ常に」という気持ちで生活していきたい。本日は、ありがとうございました。（S市立N小学校６年生） ○主要テーマである持続可能な開発や気候変動にとどまらず、地域の歴史的背景や災害状況に広げたことで、子どもたちが身近なテーマとして捉えられた。（県・市関係者） ○私たち市職員が思っている以上に中学生は災害、防災について正しく理解していることに驚き、学習機会を与えれば、自分たちで調べ・考えることができるのだ、と感銘を受けた。（N市防災危機管理課　男性職員） ○生徒たちの感想にもあったとおり、中学生は「助けられる側ではなく助ける側」であるという気づきがあったことと思う。避難所に行った時、自分にできることは何かを考えて実践してくれることを期待している。（N市防災危機管理課　女性職員）

日本 2	関東ESD活動支援センター
参考情報	〇令和6年度ESD for 2030学び合いプロジェクト https://kanto.esdcenter.jp/esd2030_kanto-r6/ 〇＜開催報告＞ESD for 2030学び合いプロジェクト「気候変動に適応した実践型防災教育」佐倉市立根郷小学校 気候変動に関するESD出前授業 https://kanto.esdcenter.jp/esd2030_kanto-r5_240201_rep/ 〇ESD for 2030学び合いプロジェクト（関東）～「気候変動による影響と対策に関する、学びと実践」 https://kanto.esdcenter.jp/manabiai_project_2022/
団体・組織情報	【団体団体・組織名】関東地方ESD活動支援センター 【設立年】2017年 【所在地】〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F 【団体概要】 文部科学省と環境省は、ESD活動の支援を行うために、全国センターと８つの地方センターを開設し、各地のESD活動に取り組む皆さんともに、SDGsの達成に向け、ESDの推進を行っている。当センターは関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京神奈川・新潟・山梨・静岡)におけるESD活動を支援し、地域ESD拠点と協働・連携した活動、さらに全国センターと協働・連携して地域と全国や海外との協働・連携を支援している。 【URL】https://kanto.esdcenter.jp/
担当者情報	【担当者名】伊藤、松沼、島田 【所属】関東地方ESD活動支援センター （運営団体：一般社団法人環境パートナーシップ会議） 【Eメール】kanto@kanto-esdcenter.jp 【電番番号】03-6427-7975